



中部国際空港株式会社提供

平成31年3月19日、近畿運輸局及び神戸運輸監理部は中部国際空港の現地調査を行いました。『平成30年度近畿地域バリアフリーネットワーク会議』での委員の発言を受け実施したものです。

《中部国際空港の特徴》

■ユニバーサルデザイン

中部国際空港は2005年2月開港した。設計段階では交通バリアフリー法は施行されておらず、ガイドラインも存在していない時期に、いち早く「ユニバーサルデザイン」の概念を導入し、「ユニバーサルデザインによる誰もが使いやすいターミナル」を目指し計画された。

■当事者参画

学識経験者、障害当事者等で構成する「ユニバーサルデザイン研究会」を立ち上げ、積極的に障害当事者の意見を取り入れた。障害者団体とは、業務契約を結び、限られた時間・予算内で協働して空港を作り上げていくという共通の認識をもとに、建設的な議論を行うことができた。



《特筆すべき具体的事例》

■トイレの機能分散

すべての一般のトイレについて、広いスペースを確保し、手すり等を設置、ドアの開閉方法を工夫するなど、手動の車いす対応の設計とした。スーツケース利用者、子連れの利用者にも利用しやすくなり、多目的トイレへの利用の集中が緩和されている。

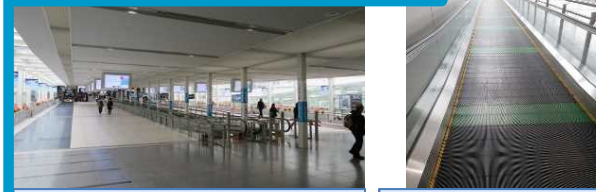
■ムービングサイドウォークを利用した段差解消

鉄道、自家用車等から空港へは、アクセスプラザを経由して移動することとなるが、アクセスプラザからムービングサイドウォーク及びスロープで3階の出発ロビーへ上がることができ、同様に2階の到着ロビーに降りることができる。エレベーターを使わずスムーズな移動が可能。

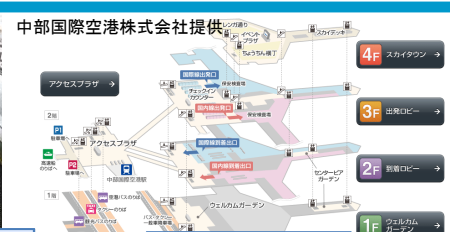


手動の車いすが入れる広さ。手すりは左右両方のパターンがある。

エレベーターに頼らない段差の解消



アクセスプラザから3階へ 配色にも工夫が



全体の構造



誰もが見やすい高さ



緊急時に点滅するランプ



軽い力で全開するドア。右・左開きがそれぞれある。